

今年もノーベル賞の発表がありました。物理学賞に赤崎勇教授・天野浩教授・中村修二教授の三方が青色発光ダイオードの研究開発に於いての成果を評価されたそうです。研究者が数千回の失敗を乗り越えて掴んだ成果だそうです。赤崎教授はコメントの中で最後は勘も必要とのこと。積み重ねがあればこそ言えるのだと思います。凡人なら尚且つ日々の暮らしを大切にしないで申し訳ないことです。中村教授は面白いことを言ってみえました。日本の学生たちは環境的に論文を読んで勉強をしているがベンチャーでは無いと。言うのも論文は過去のものだと、研究者の意見として尊重できると思います。個々に違う心的問題も同じで過去の文献のみで判断するのはとても危険だと思います。ヒヤッパーセント同じ回答はないはずです。教育・経済等含めて、お釈迦様の時代と今の時代では質問の内容も大きく変わっていると思います。個と合わせ時機相応のカウンセリングをしなくてはならないのです。自分は思想には古いも新しいも無いと思っていますが。私が今一番望んでいることは、辨榮聖者の様に人の心、人が何を考えているのか解る。自然の現象が分かる。どのように又、どこを通せば分かったのか、超常現象を科学で証明できればノーベル賞でしょう。

平成二六年十一月は先代善覚老師が亡くなられて七年に成ります。先代の時には叶いませんでした。が当山では十月に長女が結婚し、十一月初旬には長男が結婚します。寺門にとって大きな喜びです。

仕合せ」と言う言葉が御座いますがやと味わえる喜びもあります。予は宝 予は錠 予は鏝 にと申します。拙僧も佛様から託された我が子が結婚する運びとなり、四十一年ぶりの慶賀を詳らかにご本尊様に報告することができました。その上、檀信徒の方々に披露する場を与えて頂けました。誠に有難い事です。

前述の如く、当山では先代の逝去より七年を経ました。先代の姿は消えましたが、今現在でも、いつも傍にいてくれる感じをもっています。お互いの魂が交流を持っているからだと思っています。親が子離れしていないのでもなく、子が親離れできないのでも無い。唯、累々と流れる血脈の成せる業であると想っています。時満ちて親元から離れ自立していく姿は尊いものです。幹が太れば自然に枝葉も茂ってきます。根・幹・枝・葉のバランスが取れば、一族の繁栄を表します。もちろん大きくなれば成る程、維持していくのは大変です。日本を考えて見ますと、都道府県市町村の集合体です。世界は国連加盟国、一九二カ国の集合体です。社会情勢は勿論の事、健康一つ取ってもバランスが保たれているとは思われません。病で苦しんで見える方が大勢みえるのです。我が国では六五歳以上で認知症の方が四百六十二万人もみえるそうです。昨年認知症の方で行方不明になった方が一万人以上みえ、ほとんどの方は見つかるのですが中には見つからない方もいらっしゃるそうです。生死も分らず当事者は大変です。世は娯楽も多種多様、ボケル暇も無いように思われるのですが現実は違うみたいです。高齢化社会だけの問題でしょうか。そうではないと思っています。例えて言いますと、我々人間は生まれた時から氷の上を歩いているようなものです。氷の厚さも知らずに何時氷が壊れてもおかしくない状態なのに安全だと思ひ込んでいる訳です。私が言う氷とは即ち、先祖から受け継いで来る因縁の事です。色々事例を考えて見ますと、佛の教えを踏み外してしまった結果なのではないでしょうか。因縁は目にも見えず耳に聞こえず、音もなく押し寄せる水の如く、深く成ったり、浅く成つ

たりして、我々が身に因果応報をもたらすと思つています。くどくど言いますが身の清浄が一番です。我々は向上心と言う欲望によつて文化を支えて来たと思つています。ただ、欲望が薄れた人間が痴呆ちほうに罹かかるとも思えません。仏教では煩惱を戒いましめますが煩惱は欲望の激化したもので**自己の欲望を満たす為に、人間としての道徳・道理・義理**を外しやすいのです。したがって、向上心とは異なる心の作用だと思つています。我々の心身を支えている肉体が栄養失調なのか栄養過多なのか分かりませんが認知症は精巧な脳細胞が壊れてしまい認知機能が正常に働かなくなつてしまつたのでしょうか。当山では月に三回集まり、お経を称となえています。大きな声でお経を称となえればボケ防止にもなると思つています。機能が何時麻痺いつまひするか分かりません。修行しておきましょう。経ていに誦誦じゆじゆ大乘・方等經典」とあり、称となえれば即すぐ、極楽往生できる程の利益が頂けるとの説明があります。月に三回お経を称となえる修養会に参加の方が認知症に罹かかつたという事はありません。当に、お経を称となえて、御利益を頂けたと思つています。秋口龍珉氏あきぐちりゆうみんはある老師の問答話として「茶碗の価値は、焼きでも形でもなくて、中が空っぽだといふところにある」と。人間は外見に思いを馳はせる事無く、脳の中身は常に補充ほじゅうでき、満みちることの無いように心がけることです。満れば欠ける」欠ける事が脳に与える影響に大きく関わつてくるのだと思つています。脳の収容能力が如何程なのか分からないのが難点ですが。物忘れが激しくなるのも脳の衰えでしょうか。脳もトレーニングする必要があるのでしょうか。生きてる限り心身健康にして家族の負担を軽減し、国家予算の目減りを防ぎ、家族に看取られながら黄泉よみの国に往きたいものです。

日本の食文化が日本の国民の健康にどれ程神経を使つているか疑問です。口で美味しいと感じれば良いのか。安くて空腹が満たされれば良いのか。買い手に問題があると思つています。食品をいちいち調べる労力、金はありません。一時中国の食材が問題になりましたが、加工された物を買求めるのではなく食材のみを買い、おかずを作る、そうすれば多少安心なのではないでしょうか。多くの食物を外国に委ゆたねている日本ですが、**外国産が悪くて、国産なら良い訳でもありません**。加工品が売れるようになってしまつたのは女性が働く様になり生活スタイルが変わつてきたのも原因の一つでしょう。女性軽視でもなく、安心は消費者がしっかり選ぶことではないと思ひます。しかしながら、選ぶにも限界が御座います。倫理・道徳心の欠如と相まって、食の安全を過信しないことでしょう。作物・食材を作る方たちの気持ちや佛の心をもつて共に良き暮らしが出来る様に心掛けて下されば幸いです。世の中、心の健康も重要です。心は静かな湖面の如く己が姿を映しだす時もあれば、燃え盛る炎か、煮えたぎる湯の如く暴れ、己が姿を見失つてしまう事もあります。肉体的には健康でも心が乱みだれては何時間違つた方向に進んでしまうのか分かりません。人の目はごまかせても佛の目はごまかせません。星雲大師せいうんだいしの**葉根譚**に**大の役に立たないことは、言わないほうがいいし、人の役に立たない考えは、起こさないほうがいいし、人の役に立たない行いは、しないほうがいいのです。」**と、五官を磨き、親から頂いた肉体及び魂を大切にすることが親孝行の一つです。目上の方に礼を失せず、信じあえる友達を持ち、善き情報を得て、共に良き日暮ひぐりを致しましょう。

二十六年十一月一日

善書院善入院油掛地藏尊